

# 大正3年(1914)大軌奈良駅開業 (現在の近鉄奈良線)

近代化遺産

「近鉄」の前身である「大軌(大阪電気軌道)」は、この年大阪上本町と奈良を結ぶ現在の「近鉄奈良線」を完成。生駒トンネルは明治44年工事着工、難工事の末大正3年開通。新生駒トンネルの開通により昭和39年(1964)使用を終えた。



昭和43年地上近鉄奈良駅 吉田氏

昭和39年 新旧のトンネル 左:新 右:旧

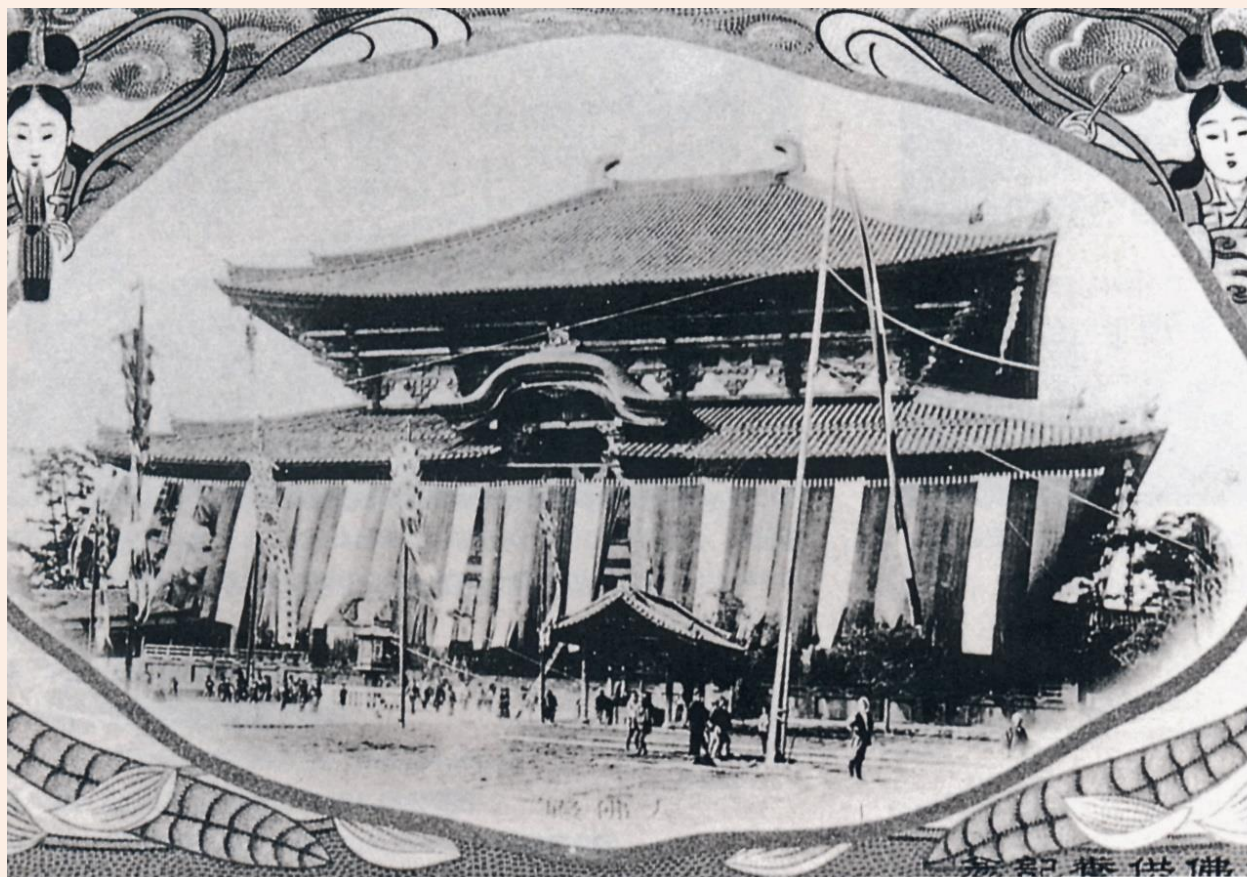
写真提供: 生駒ふるさとミュージアム蔵



# 大正4年（1915）大仏殿の明治大修理が完成

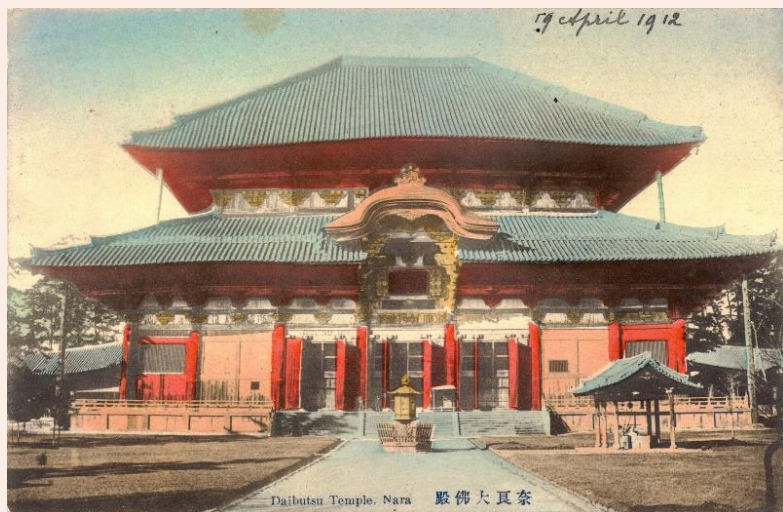
## 落慶法要実施

明治の早い時期から大規模な修繕を計画していましたが明治42年工事開始。明治天皇崩御などがあり修理の完成は大正期にずれこみました。補強に巨大なイギリス製の鉄骨が大仏殿に組み込まれている。



東大寺落慶法要（大正4年5月）記念絵はがき

写真：市制100周年記念要覧「奈良」より



修理前の大仏殿

提供：成瀬匡章氏



# 大正5年（1916）浮見堂が完成

奈良公園の整備の一環として現在ではおなじみの「浮見堂」が大正5年に建設されました。木造桧皮葺き八角堂の浮見堂と朱塗りの蓬莱橋が完成した。

昭和41年修復。  
浮見堂は平成3年から6年にかけて修復再建されました。



昭和10年代 雪の浮見堂

奈良ホテルが遠景に

写真 奈良県立図書情報館蔵

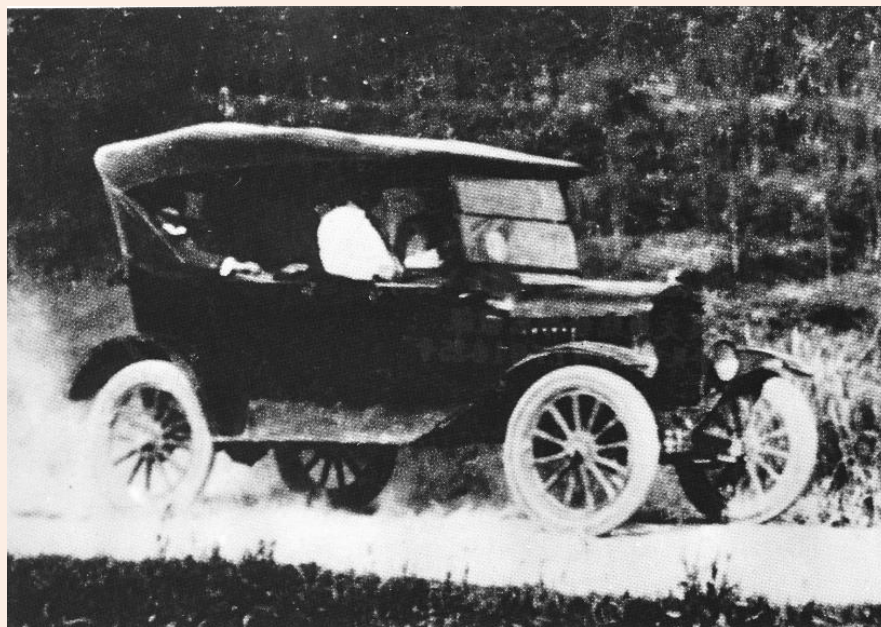


# 大正6年（1917）奈良県初のバスが走る

奈良県に初めてバスが走ったのは大正6年、奈良県宇陀郡松山町から桜井まで松山自動車商会でした。当時、鉄道各線が開通し、主要各駅と、後背地の山間部を結ぶものとして自動車が発達した。

昭和4年奈良自動車が各社統合し設立。その後昭和18年各社併合し奈良交通に社名変更。

写真：奈良交通株式会社

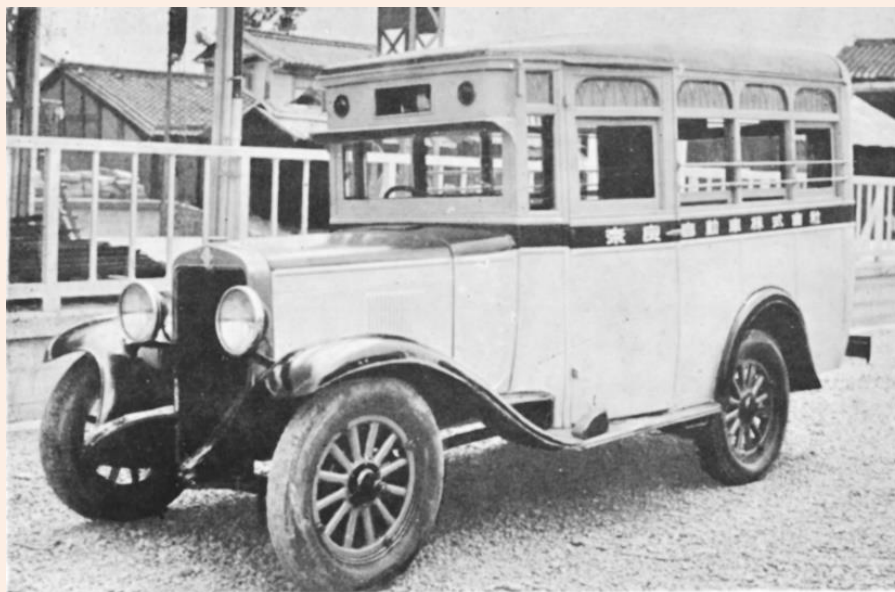


大正6年  
宇陀郡松山・桜井間を走る  
松山自動車 T型フォード定員6人



↑松山自動車のT型フォード

松山自動車のT型フォード



昭和4年 奈良自動車開業当時のバス  
銀バス（奈良自動車バス）  
大軌奈良駅前



# 大正7年（1918）生駒鋼索鉄道（生駒ケーブル）

近代化遺産

## 日本最初の営業ケーブル

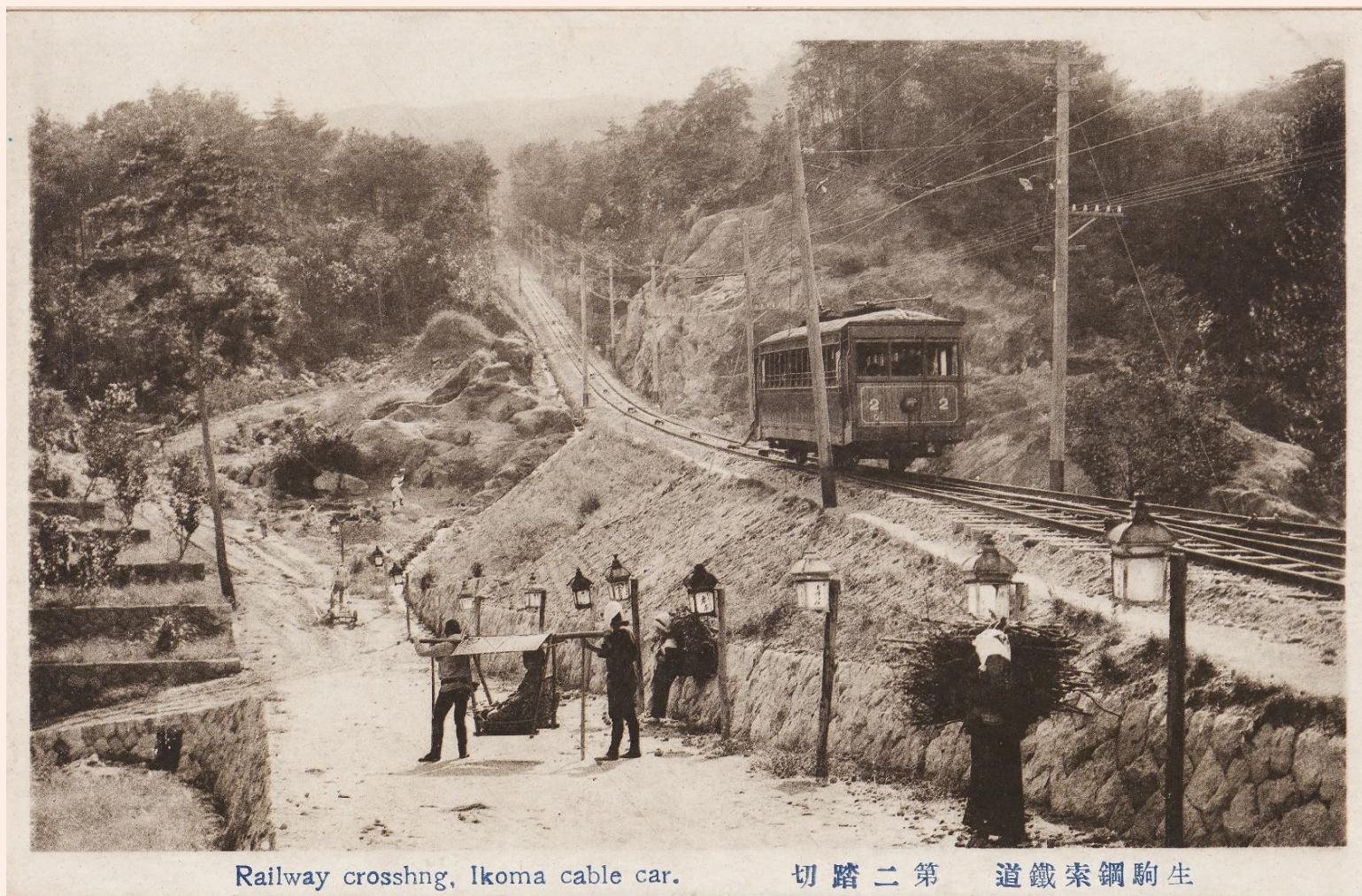
生駒市鳥居前駅から宝山寺駅を経て生駒山上駅まで。

宝山寺線（鳥居前駅～宝山寺駅）、山上線（宝山寺駅～生駒山上）の2区間よりなる。

宝山寺線は日本初の営業用ケーブルカー。

大正7年（1918）8月29日生駒鋼索鉄道が開業。

当時は籠での参詣者もいた。



Railway crossing, Ikoma cable car.

切踏二第 道鐵索鋼駒生

生駒鋼索鐵道 第二踏切 営業当初のケーブルカー

写真提供：成瀬匡章氏



# 大正 10 年(1921)尾花劇場設立

## 奈良市内初の映画常設館

奈良には尾花座と中井座という芝居小屋があったが、明治の終りにそこで映画の上映も始まった。

その頃は芝居をやったり映画をやったりで、時には活動写真混合芝居（連鎖劇）も上映された。

大正 10 年に尾花座を尾花劇場と館名変更して奈良市内初の映画常設館となった。大正時代の市民の代表的な娯楽は映画であった。

大正 10 年頃の尾花劇場

写真：中野重宏氏





# 大正 11 年(1922)宇治川電気梶尾吉野発電所 (現関西電力)

近代化遺産

林業と発電産業の複  
合的遺産。

発電所が建設された  
頃、吉野川では筏流  
して木材運送してい  
ました。大滝は筏の  
難所であった。

その上流に堰を造り  
落差を発電に利用し  
た。又脇に筏流路を  
開鑿し筏を流した。  
林業と発電量産業の  
両立を図った近代化  
遺産である。



梶尾吉野発電所（写真の建物）と筏流路

ふるさと吉野 懐古写真集 吉野町文化協会編

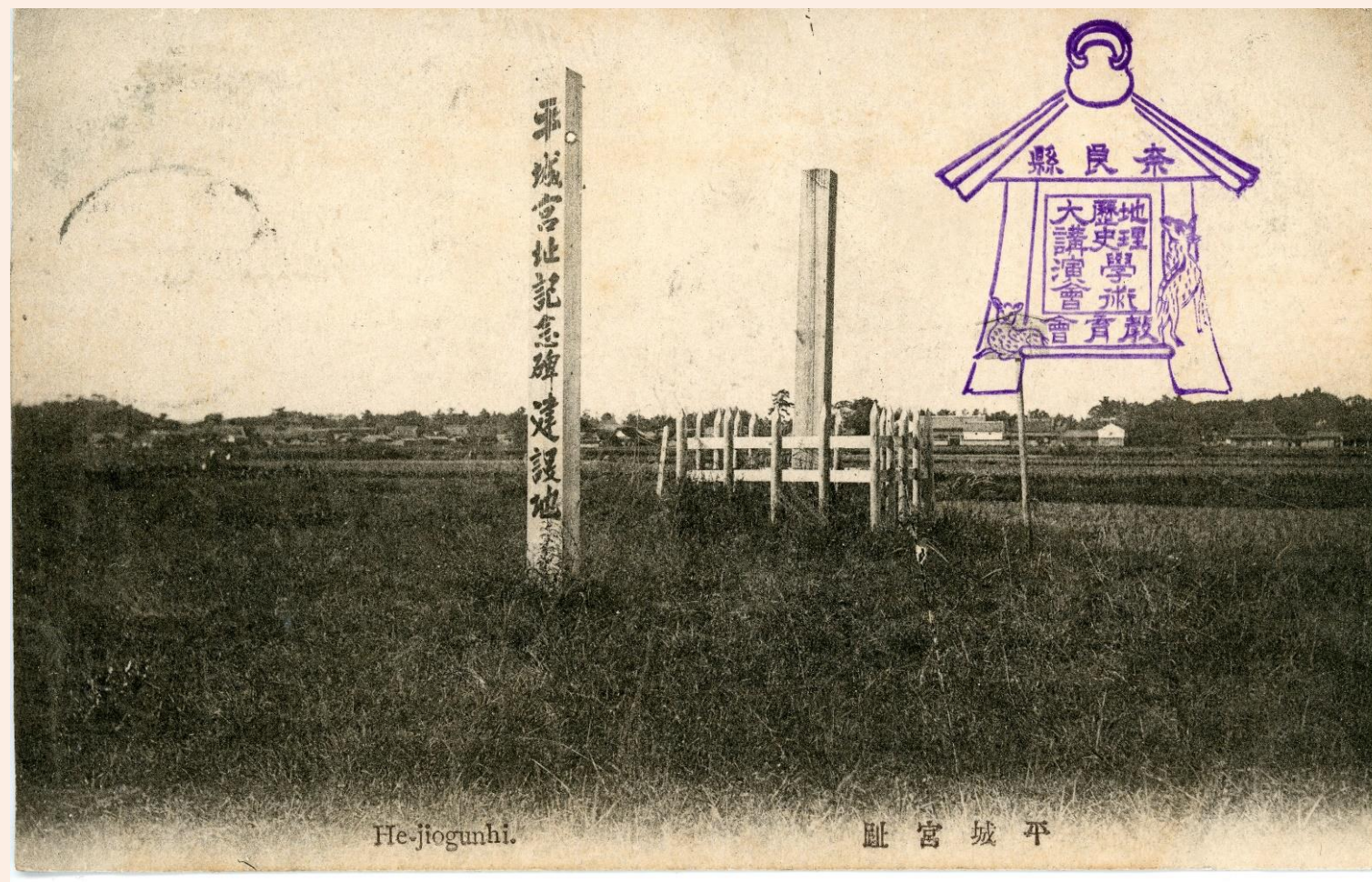


# 大正11年(1922)平城宮跡史跡に指定

「第二次大極殿跡」「朝堂院跡」

棚田嘉十郎と呼ばれる人物が宮跡の保全に尽力したことで知られる平城宮跡ですが、この時期になりようやく史跡として国に認められることになり、「荒地」から「歴史遺跡」へのひとつの転換点となりました。

保存整備の多くは戦後に持ち越されることとなります。



He-jiogunhi.

平城宮跡

平城宮跡 大極殿土壇上の標木の写真(大正2年以前)  
奥に見えるのが明治34年、手前が明治43年の標木です。

写真：奈良県立図書情報館蔵



# 大正 14 年（1925）志賀直哉が奈良に移住 （高畑サロンの形成）

県指定有形文化財

志賀直哉は大正 14 年、京都山科から奈良へ居を移した。

初めは幸町でしたが昭和 4 年に高畑に志賀直哉自身が設計した、数寄屋風の造りで洋風の様式も取り入れた家を建て引っ越した。多くの文化人と文学・芸術を論じ交流を大切に「高畑サロン」とよばれ、また執筆活動を行い、昭和 12 年には長編小説「暗夜行路」を完成した。

奈良で 13 年間過ごした。



白樺派の精神を生かした茶室。

写真：2020 年 河本 勝





# 大正 15 年(1926)あやめ池遊園地開園

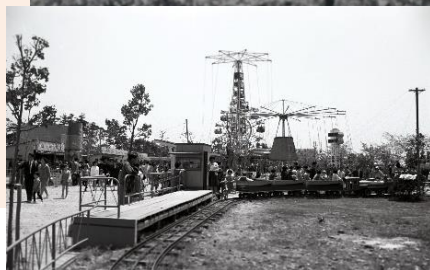
大正 15 年、大阪電気軌道  
(近鉄の前身)があやめ池  
遊園地を開園。

昭和 3 年から 4 年にか  
けて、温泉場、劇場、食堂も  
大軌直営で開場した。OSK  
日本歌劇団の常設円形大劇  
場があった。

平成 16 年(2004)閉園。



昭和 40 年 岡田庄三氏撮影



大正 15 年 あやめ池遊園地開園風景

写真：市制 100 周年記念要覧「奈良」より



大正15年(1926)

旧第六十八銀行奈良支店開店(現、南都銀行本店)

設計長野宇平治。外壁には岡山産の花崗岩と褐色の煉瓦を使用し、構造は鉄筋コンクリート造の3階建て地下1階。奈良唯一の壮麗な外観でイオニア式円柱のギリシャ様式建築。

大正15年第六十八銀行奈良支店として建てられ、昭和9年から南都銀行本店になる。



南都銀行本店

建設当時の写真に着色

写真提供：南都銀行